

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000118		
法人名	株式会社 成峰		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	岡山県新見市高尾232-2		
自己評価作成日	令和5年10月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和5年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アピールしたい点
・自然に囲まれた中で閑静な住宅街の一角にある。敷地内には庭木や畑があり緑に癒されている。
・町内会に属しており、生活と地域が密着している。
・敷地内に訪問看護事業所等があり、連携しながら職員一丸となって取り組んでいる。
・勤続年数の長い職員が多く、認知症の理解に前向きで業務を遂行している。
力を入れている事
・利用者と少しの時間でも向かい合ってコミュニケーションをとる。
・利用者を閉じ込めないケア(地域・地元の行事やイベントに参加する)・家族との関わり(絆)を大切に増やす。
・今できている事をしっかりしていただけるように創意・工夫をする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行事や災害対策等、日常的に地域と協力関係にある様子が見受けられます。認知症カフェや出前講座等、専門職としての地域貢献に積極的に取り組んでいます。入居者が落ち着かない時には対処的に関わるのではなく、職員は入居者の言動の理由を推察して関わっており、本人の気持ちを大切にしたいケアに努めている様子が窺えます。同敷地内の訪問看護事業所と協同し、事故や急変時における処置や医療連携、重度化した入居者に対するケア(入浴支援や点滴等)がより一層手厚く行える体制となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新体制になったが、今までの理念を引継ぎ地域密着サービスの意義を踏まえ、事業所から地域へ発信、交流ができるように代表、管理者、職員が一丸となって取り組んでいる。	今年度、ユニット統合となった新体制において、ホームの理念を今一度ユニット間の共通認識として反映される様、管理者を中心に日々のケアを見直す取り組みに努めています。	再度理念を読み解く機会を設け、理念に沿ったケアにより一層近づく事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの第5類への移行後、徐々に緩和する中、未実施になっているが季節行事を地域住民と共に楽しんだり、災害時の連携を図るため地域住民へ避難訓練への参加を呼びかけている。学生の実習や運営推進会議は再開している。	地域とはお祭りを通じた交流や、避難訓練への協力があります。散歩に出掛けたら近所の方が集まってきて立ち話になる等、日常的に地域と繋がりがりながら暮らしている様子が見受けられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ禍の為、実施が難しい状況ではあるが認知症カフェの場を通じて、家族や地域住民へ「認知症ケア」についての理解を深めて頂けるよう情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年度は、2ヶ月に1回の運営推進会議を通じて、ホームの運営やケアに対する助言を頂き、現場職員へ伝達することで実践に結びついています。	入居者や家族、地域関係者も運営推進会議に参加しており、様々な立場からの意見をサービス向上に活かしていく姿勢が窺えます。災害対策に関する意見等、実際に運営に反映している事が見受けられました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃疑問に思っていることや判断に迷う際には、直接行政の担当者に連絡を取り、適切な指示を仰いでいます。	不明点があればその都度連絡を取って確認しています。認知症カフェや出前講座、学生の実習受け入れ等、市町村の取り組みに積極的に協力しており、日頃から関係構築に努めている様子が窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1度身体拘束適正化委員会を開催し、センサーマット等の使用が適切な目的のもと使用されているか等身体拘束0への取り組みを積極的に行っている。研修も計画して行っている。	身体拘束をしないケアに向けて、入居者の気持ちを察する事を大切にして日々関われる様にしています。管理者を中心に、身体拘束委員会や日々のケアの振り返りを通じて、学びを深めています。	一人ひとりの入居者が抱えている根本的な不安や混乱を取り除くケアを、継続して実践することに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する内部研修を実施し、職員全員が高齢者虐待防止への認識を共有しています。職員のストレス解消にも努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用があった。適切な支援ができるよう権利擁護を学ぶ為の外部研修に参加したり、後見人との連絡を密に取りながら連携を図っています。管理者自身の意識が大切である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、グループホームの趣旨をご理解いただくよう丁寧な説明を心がけています。また、入居時には運営規定や重要事項説明書に基づき説明を行い、不明点について必ず確認を行っています。契約後の確認も必要である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については月1回のモニタリングを通して、課題及びニーズの抽出を行いケアプランに反映させています。家族へは面会時や電話連絡を通してホームへの要望や意見の聞き取りを行っています。	入居者の意見は毎月のモニタリングを通じて、ケアプランや生活に反映しています。家族には写真付きのお便りを送付する等、実情を伝えながら意見・要望が聞ける様な関わりに努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングで、意見の抽出、問題提起、リスク抽出、マネジメント等を行い管理者及びリーダーが取りまとめ、代表に報告。役員会等で決定し周知または通達（記録開示）	職員の家庭状況（子育て世代等）を考慮した勤務時間や休日取得等に加えて、日々のケアに関する職員の意見や提案を反映させている等、働きやすい職場環境作りに努めている事が見受けられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のスタッフミーティングで、意見の抽出、問題提起、リスク抽出、マネジメント等を行い管理者及びリーダーが取りまとめ、代表に報告。役員会等で決定し周知または通達（記録開示）		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者一覧の作成 就業規則などの把握 本人のやる気や希望の聴取（目標や方向性） 勤務態度や人格、能力、目的意識の確認と評価 自己成長の振り返りと自己肯定感の向上、成功体験（定期的な面談や声かけ）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徐々に新見市内外の研修会、及び地域密着型サービス連絡協議会（オンライン研修）への参加ができるようになった。研修を通して積極的なネットワークづくりに努力しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接(本人・家族)を行い、心身の状況や生活状況等の聞き取りを通して、入居後の支援方針を検討しています。また、その内容を職員で共有し、ケアの統一を図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、家族へも聞き取りを行いご本人に対する家族の想いやホームへの希望やニーズの把握を行っています。家族も不安なくホームを利用できるよう家族支援にも力を入れるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、緊急性や早急な対応が求められる方には、各関連事業所と連携をとり、柔軟な対応を行う。ご本人及び家族から得られたニーズやご本人のこれまでの生活状況を総合的にアセスメントし、家族と一緒にホームでの生活を考えていきます。その内容をもとにプランを立てています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者対職員の関係性ではなく、家族が共に生活する場と捉え、個人の生活リズムを大切にして、それぞれのペースに合わせた生活が送れるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはプライバシーに配慮し、気兼ねな面会時にはプライバシーを大切に、ゆったり過ごして頂けるよう環境に配慮しています。また、毎月のお便りを通してホームの様子を家族に伝えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ第5類移行後、感染予防対策を徹底したうえで制限を緩和しています。外出、外泊等を行い家族間、知人との交流に取り組んでいます。	家族と外出や外泊する際は、不安なく過ごせる様に、職員が生活の留意点を詳しく説明しています。孫やひ孫の面会があった際、写真を撮ってプレゼントする等、これまでの関係継続や、入居者の喜びに着目した取り組みが見受けられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士はお互い家族という共通認識を大切に、全員にとって心地良い生活場所となるよう、利用者同士のコミュニケーションが促進されるような環境調整を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者に対しては、電話連絡等を通じてその後の生活状況や家族の状況について把握し、必要に応じて相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ひとりひとりとゆっくり向き合う時間を大切にし、しっかりコミュニケーションをとるよう努力しています。コミュニケーションが困難な利用者については家族への聞き取りを通してご本人の想いを一緒に考えています。	管理者は全ての入居者と必ず意思の疎通ができると考えており、また職員も入居と意思疎通を図る関わりに努めています。手段は言葉だけでなく、書いて伝える、寄り添う等、様々な方法で入居者の思いや意向を汲み取る工夫が見受けられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際にご本人及び家族から十分聞き取りを行い、そこに語られる内容を整理しホームでの生活に繁栄しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを把握し、その人に合わせた就寝時間や起床時間を職員で検討しケアに活かしています。また、できることはご本人にして頂くことで自立支援を積極的に行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人及び家族からの聞き取りで得た課題やニーズをプランに反映し、全職員とケアの統一を図っています。また、必要に応じて専門職や他職種と連携を図り、意見を求めています。本人、家族、職員による話し合いができるように努めています。	基本に立ち返り、日々の介護記録の目的を職員間で再学習する機会を持つ等、記録の精度を上げる事で、本人にとってより良い介護計画となる事を目指して取り組んでいる様子が窺えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個別の生活記録に記載し、全職員で共有しています。また、月に1度ミーティングを実施し、利用者のカンファレンスを行いケアの検討を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の多様なニーズにできるだけ対応できるように努めています。訪問理美容では好みの髪型や気になる顔そり等行っている。老年看護学生の実習、地域福祉学科アクティビティ実習の受け入れによる刺激がQOLの向上につながる。GHだからできる外出支援の計画を行い気分転換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ地元の業者や社会資源を利用している。訪問理美容、食材の購入（配達）、お出かけカフェに参加し地域の人々との交流。地元のTV放送をを通じて話題を見つけ昔の生活の様子を思いだして楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医を確認しスムーズに医療連携が図れるよう取り組んでいます。利用者の状況に合わせて受診同行を行い、適切な医療が提供される体制を整えています。	往診時には同法人内の看護師が同席し、医療連携を図っています。受診は家族の協力のもと、職員が付き添い状況報告を行っています。家族だけが受診に付き添う場合は、情報書を手渡し、適切な医療が受けられるように取り組んでいる様子が窺えます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬に関することや医療処置などは、必ず看護師に報告、相談し処置や医療につなげている。救急対応もスムーズに行っている。現在、訪問診療を行っているが、主治医不在時、他病院への受診となる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には市内共通の情報共有書を即時に作成し、医療機関との連携を図っています。また、入院中も訪問や電話連絡を通して状況の確認や退院に向けての生活面での方針について早期から検討していく体制を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは行っている。重度化していくケースについては、家族、看護師、職員と一緒に支援内容を考えて行きます。グループホームでも看取りが行えるよう、環境整備及び職員研修を行っているところです。	医療が必要になった場合、速やかに医療機関につないでいます。終末期支援に関して、不安を感じている職員もいる為、職員の育成も含め、看護師主導で体制整備に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が不安なく、急変時の対応や事故への対応ができるよう、積極的に研修を取り入れています。消防署職員に依頼し、AEDや心肺蘇生法についても学んでいます。緊急連絡網や応急処置のマニュアルの整備を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回日中及び夜間を想定した避難訓練を実施しています。今後地域の方の参加も再開し、日頃から災害時に備えた地域連携を強化しています。日頃から火災時の誘導シュミレーションを行うように周知。災害時の地域の避難施設として役割。防災士在中。	避難訓練に地域住民も参加しており、円滑な避難誘導の手段と一緒に検討する等、地域との協力体制を築いている様子が窺えます。	想定を超える自然災害時にも、職員や地域の協力者が落ち着いて安全に入居者の避難誘導を行う為に、今後も地域関係者と共に実践的な訓練を継続する事に期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である利用者ひとりひとりの尊厳を大切にした対応を大切にしています。排泄の確認等プライバシーへの配慮を重要に捉えたケアを実践しています。職員の思いを押し付けることなく傾聴に心がけています。	職員は、本人の思いを大切にした関わりを心掛けています。食事が進まない時には、さりげなく食事の場所を変えてみる等、個々の思いを探りながらプライバシーに配慮して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の想いを表出しやすいよう、問いに選択肢を設けたり、普段の会話を通してニーズや興味等の聞き取りを心がけています。また、ご本人のしぐさや表情の観察を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりにとっての生活の場である事を大切にし、利用者が主体的に生活できる働きかけを心がけています。毎日がひとりひとりにとって充実した1日となるよう職員も自分自身のケアを振り返る時間を設けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服を職員と一緒に選んだり、洗面台で鏡を見ながら一緒に身だしなみを整えて頂きます。昔からお化粧や毛染めをしている利用者はその想いを大切にし、入居後も継続していただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好品や食事形態、アレルギーについて細かい聞き取りを行い、嫌いなものについては栄養面を考慮した上で代替えの食材を提供しています。また、野菜の皮むきなど役割の1つとして参加していただきます。食器拭きも出来ています。	入居時に食事に関する丁寧なヒアリングを行い、日々の献立に反映しています。一人ひとりの食べるペースを大切にしている他にも、介助の際は、料理の内容を言葉で伝えながら行う等、食事を楽しむ雰囲気作りを大切にしている事が見受けられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分摂取量は毎日記録し、低栄養や脱水に注意しています。また、個人の咀嚼や嚥下状態に合わせて一口大にカットしたり、ミキサー食、ソフト食にする等安全面への配慮を行っています。栄養ジュースも取り入れています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。介助が必要な利用者は職員が義歯を外して洗浄を行い、口腔衛生にも力を入れています。義歯を使用しない人には、口腔ケアウエットにて保清。舌の掃除も定期的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握と必要に応じて声掛けを行っています。重度な利用者也可能な限りトイレで気持ちよく排泄できるよう職員が介助し、ご本人の想いを大切にしています。布パンツ方への交換時の声かけ等配慮しています。	排泄チェックシート等を活用し、一人ひとりの尿量や動作等、根拠に基づいた排泄用具を選定し、自立に向けた排泄支援に取り組んでいる様子が窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として毎日手作りヨーグルトを提供し、体操を積極的に取り入れています。また、下剤を適切に使用するため排便日誌を作成し、個別に応じた排便管理を行っています。トイレでの排便の習慣づけを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	プライバシーに配慮し、家庭的な雰囲気の中でゆったり入浴していただけるよう心がけています。お湯の温度もひとりひとり確認し、入浴前のバイタルチェックで安全に気持ちよく入浴できるよう努めています。座位が困難な方は簡易浴槽での入浴も行っています。	同法人の訪問看護師と協同し、ホームの浴槽に浸かる事が困難な身体状況の入居者に、簡易浴槽での入浴支援を行う等、入浴を楽しむ事ができる支援が見受けられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は個々の習慣に合わせてゆっくり休んでいただいています。また、冷暖房の調整などはひとりひとりが心地良く眠れるよう室温に配慮しています。日中も自由に居室で休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からの処方薬は個人の薬袋で管理しています。投薬時には必ず2人の職員で確認し、誤薬防止に努めています。また、嚥下状態等に合わせて薬の形態を変更する等薬剤師との連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話を通して、その方のバックグラウンドや興味などの聞き取りを行っています。また、家庭での役割が継続できるよう食器拭きや洗濯物たたみ等役割や生きがいの支援を大切にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診の機会などを外出支援への協力として家族にお願いしており、外食などして帰られ笑顔が見られます。定期的に外泊される方もおられます。数名ずつ、紅葉を見にドライブに出かけています。玄関先で外気浴は日課になっています。	玄関先での外気浴、駐車場や表の通りまでの散歩を日常的に実施しています。家族が病院受診に行く際は、生活上の留意点を伝え、外食をして帰る機会を提案しています。家族とも連携しながら戸外にでかける機会のある生活を送れるようにしている様子が窺えます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に「預り金」として、個人が自由に使える現金をお預かりしています。ご本人の希望に応じて預り金から購入できる体制をとっています。また、職員と共に買い物に出かけるという楽しみにも繋がっています。受診時に支払いを試みています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に合わせて家族や知人に電話をされています。ご本人が電話をかけることができない場合には、職員が代行して電話を取り次いでいます。携帯電話で息子様との連絡を日課にしている方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全ての場所が清潔に保たれるよう掃除を徹底しています。また、蛍光灯の色やテレビ音量にも配慮しています。ホールの壁面製作も季節に応じて変化を持たせ、室内に居ても季節感を感じて頂けるよう工夫しています。季節の花も生けています。天窓を開け換気も行っています。	掃除が行き届き、清潔感のある共有空間となっています。入居者と職員が共同で製作した壁面作品からも季節を感じ取れます。入居者が一人きりにならないように職員が介入し、全ての入居者が輪の中で過ごせるように配慮している様子が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置し、ゆったりくつろぎながら利用者同士交流が図れるよう配慮しています。また、天気の良い日にはテラスでお茶を飲んだり外気浴をしたり季節感を大切にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に居室のレイアウト等について説明を行い、基本的に自由に家具等を持ち込んで頂いています。また、馴染みの環境を大切に、家族の写真や思い出の品物を飾られています。TVの持ち込みもあり好きな番組が見れています。	使い慣れた家具等を持ち込み、その人らしい居室空間となっています。昼食後は居室内で昼寝をして過ごす入居者がいたり、本人の生活習慣を大切にしながら、居心地良く過ごせる工夫が見受けられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりの状況に合わせて安全面への配慮及び自立支援に繋がるよう環境調整を行っています。また、洗剤等の保管場所も確認を行い安全な環境づくりに努めています。短いほうき、花瓶の水換え、水やり等率先していただきます。		